

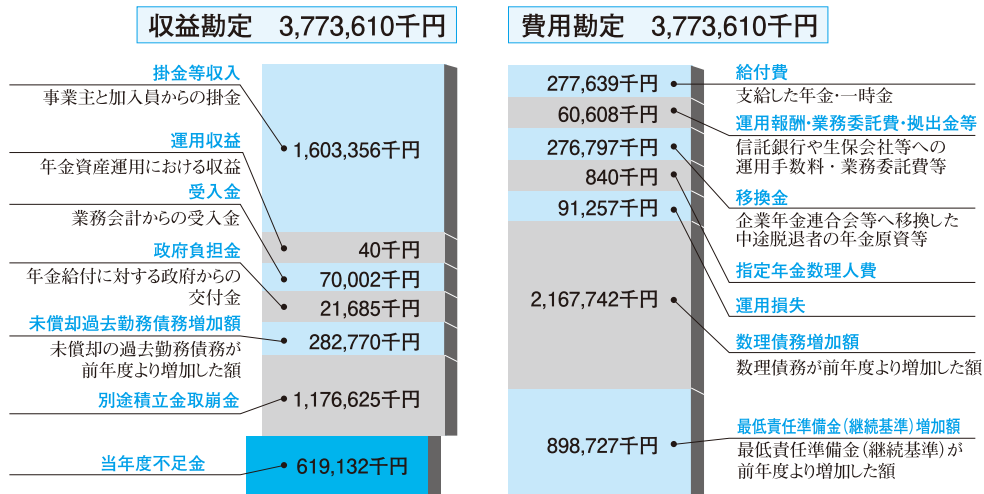
# 平成22年度 基金決算の お知らせ

## 年度末年金資産は約96億円に

当基金の平成22年度決算が、去る9月13日に開催された第45回代議員会において審議され、全会一致で決・承認されましたのでお知らせします。

平成22年度は、大幅な円高や東日本大震災の影響で運用環境が悪化し、当基金の資産運用もマイナスになったことで、不足金を計上することになりました。

**年金経理** 年金・一時金の給付に必要な収支に関する経理です。(平成22年4月1日～平成23年3月31日)



## 平成22年度末時点の積立状況

### 年金資産と給付債務

下図は、貸借対照表を図式化したものです。資産勘定の「年金資産+未償却過去勤務債務残高」と負債勘定の「給付債務+支払準備金等」を比較し、後者が大きい場合は不足金が生じます。「給付債

務」とは、将来の給付に備えて基金が現時点で保有すべき数理上の債務額で、その内訳には基金独自の上乗せ部分に係る「数理債務」と国の代行部分に係る「最低責任準備金」があります。

#### 資産勘定 10,775百万円

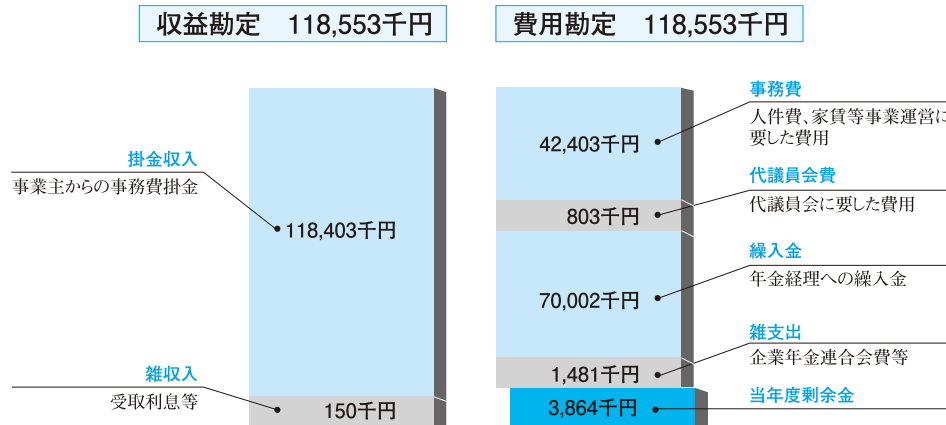
|             |          |
|-------------|----------|
| 年金資産        | 9,579百万円 |
| 信託資産        | 8,817百万円 |
| 保険資産        | 519百万円   |
| 預貯金等        | 243百万円   |
| 未償却過去勤務債務残高 | 577百万円   |
| 当年度不足金      | 619百万円   |

#### 負債勘定 10,775百万円

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| 給付債務              | 10,549百万円 |
| 数理債務              | 2,379百万円  |
| 最低責任準備金<br>(継続基準) | 8,170百万円  |
| 支払準備金等            | 226百万円    |

(平成23年3月31日現在)

## 業務経理・業務会計 基金の業務運営に必要な費用に関する会計です。(平成22年4月1日～平成23年3月31日)



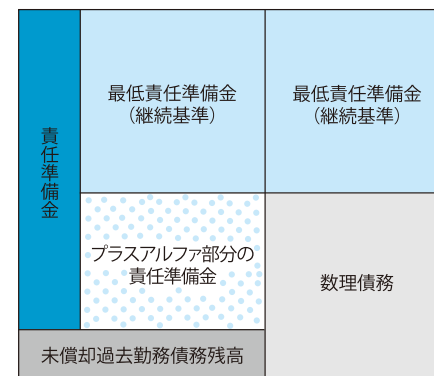
## 平成22年度

## 積立水準の検証

基金では、毎年積立水準の検証を行っています。検証方法は、基金が将来的に継続することを前提とした「継続基準」と、決算時点で解散することを想定した「非継続基準」の2つの基準によって行われます。各基準の検証に用いられる責任準備金などの関係性については、右のイメージ図を参照してください。

当基金における平成22年度末の積立水準は下表のようになっており、継続基準・非継続基準ともに基準値をクリアしていますので、変更計算等を行う必要はありません。今後も財政状況を注視し、健全な運営を心がけてまいります。

### イメージ図



| 区分    | 当基金の積立水準      |           | 基準値   |
|-------|---------------|-----------|-------|
| 継続基準  | 純資産額+許容繰越不足金  | 14,524百万円 | =1.45 |
|       | 責任準備金         | 9,972百万円  |       |
| 非継続基準 | 代行給付<br>について  | 純資産額      | =1.16 |
|       |               | 最低責任準備金   |       |
|       | 給付の全体<br>について | 純資産額      | =0.93 |
|       |               | 最低積立基準額   |       |